

柔軟剤による衣類の変色

【問】柔軟剤が、シミや変色の原因になることがありますか？

(40歳代女性)

～使用方法と適量を守る～

【答】柔軟剤は、糸または織物や編物の柔軟性を高めるための仕上げ剤として使用され、「界面活性剤系」と「樹脂系」の二つの主要タイプに分類されます。

界面活性剤系は、陽イオン（カチオン）界面活性剤と呼ばれる成分を主成分としています。樹脂系にはシリコン、ポリエチレン、ポリウレタンなどのエマルジョン（乳濁液）があります。

これらはいずれも、界面活性剤の疎水基あるいは平滑性の樹脂が繊維表面を覆い、繊維相互の摩擦係数を低下させることによって柔軟性を高めています。その他に、静電気を抑える効果や、衣類を香り高く保つための香料が含まれた柔軟剤もあります。

柔軟剤は、その成分が繊維を覆うことで効果を発揮し、正しい使い方をしていれば、問題は起こりにくいと考えられます。ただ稀に、柔軟剤の原液が直接衣類にかかったり、その成分が繊維に過剰に残留するなど、誤った使用方法によって、衣類のシミや変色の原因になることがあります。

柔軟剤を使用する際は、必ず衣類の取り扱い表示に従い、使用方法と適量を守って使用してください。

また、柔軟剤には、使用期限が設定されていません。保存期間や保存状態によっては、劣化することも考えられます。分離した柔軟剤や、粘度が高く水に溶けにくくなった柔軟剤は、使用を避けた方が良いでしょう。

汗や皮脂などの汚れが、衣類に残った状態で柔軟剤を使用すると、汚れを覆うことになり、その汚れが変色の原因になることがあります。柔軟剤を使用する前に、衣類をきれいに洗いましょう。

衣替えなどで長期間保管する衣類にも、柔軟剤を使用することは出来ませんが、シミや変色のリスクを考えると、控えた方が良いでしょう。

【筆者の一言】

消費生活センターには「柔軟剤の香り」についての相談も寄せられています。「近隣からの、柔軟仕上げ剤と思われるのに悩まされている」「隣人の洗濯物の香りが強すぎて、頭痛や吐（は）き気がする」など、お困りの方がおられます。柔軟剤の香りが、他人に害を与える可能性があることを、知っていただければと思います。

(県消費生活センター)